

平成29年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	社会調査法 (Method of Social Survey)			授業コード	E046101
担当教員名	今西 衛			科目ナンバリングコード	E21401
配当学年	2	開講期	前期		
必修・選択区分	地域マネジメントコース必修	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	地域マネジメントコースの学生は必修科目です。 社会福祉士国家試験受験希望者は必修科目となっています。				
受講心得	遅刻、無断外出、私語、スマートフォンの使用など、講義の妨げとなる行為や他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。				
教科書	酒井 隆(著)「図解 アンケート調査と統計解析がわかる本[新版]」日本能率協会マネジメントセンター,2012年				
参考文献及び指定図書	社会福祉士国家試験受験希望者は以下の参考文献を紹介します。 【推奨テキスト】 石田路子(2009)『社会調査の基礎』久美出版 【参考テキスト】 社会福祉士養成講座編集委員会編(2009)『社会調査の基礎』中央法規 宮本和彦他(2008)『社会調査の基礎』弘文堂 平山尚他(2008)『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房 ※推奨テキストをもとに講義を行いますので、購入をお勧めします。※その他参考テキストについては、講義時に随時紹介します。				
関連科目	まちづくりマーケティング、まちづくりマーケティング演習、観光学入門、データ解析A、システム分析論、プログラミング入門、プログラミング言語、サービスラーニングIA,IB,II,III、フィールド調査				

授業の目的	地域マネジメントコースでは、地域が抱える問題を自ら発見し、問題を解決するために、創造性を発揮し、データとロジックに基づいた科学的論理思考するイノベーション人材を育成し、大分をはじめとする、地域を牽引する人材へ成長を目指します。 具体的には、次の6つからなります。 1) 現場での経験を言語化するための基礎となる理論、 2) 現場で起きている事柄に対して問題を発見し分析する能力、 3) 発見、分析した事柄を他者へ伝える能力、 4) 問題を解決し、新しい提案を行う能力、 5) 地域が持続可能な事業へとプロデュースする能力、 6) 実践的サービス提供の能力 本講義は、この2)、4)についての専門教育を目的とします。具体的には、地域の課題を客観的に発見し、定量データ、定性データを分析できる能力、および、事業を客観的に評価する能力を習得することです。
授業の概要	社会調査は団体の意思決定の材料となる定量的調査に重きます。社会調査をきちんと理解しなければ、調査結果も信頼性を欠くものとなり兼ねません、本講義は、まちづくりマーケティング、観光学入門、フィールド調査等を関連科目を念頭に置き、シナリオ作成から分析手法までをイメージした社会調査の基礎を学びます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：オリエンテーション 社会調査の目的について説明します。また、社会福祉調査との共通点、相違点についても説明します。	レポート提出
第2週：社会調査とは なぜ社会調査を実施するのか、その目的と、調査結果を読み解く際の留意事項について説明します。	レポート提出
第3週：社会調査における倫理 社会調査を行うにあたり、個人情報保護などに配慮する必要があります。社会調査における留意事項について説明します。	レポート提出
第4週：社会調査の種類	

社会調査には様々な種類があります。それぞれの調査について説明します。	レポート提出
第5週：社会調査の企画(1) 社会が持つ課題、社会調査の企画・設計の進め方などについて学びます。	レポート提出
第6週：社会調査の企画(2) 回収率を高めるにはどうすべきかなど、社会調査の調査項目や、期間、経費、サンプル数などについて学びます。	レポート提出
第7週：尺度 調査で得られるデータには、4つの尺度があります。それぞれの尺度について学びます。	レポート提出
第8週：調査票の作成 調査票の作成方法について学びます。	レポート提出
第9週：実査・コーディング、データ入力 実際に社会調査を行うときに気をつけるべきこと、データの入力方法について学びます。	レポート提出
第10週：データの集計(1) 単純集計とクロス集計について学びます。	レポート提出
第11週：データの集計(2) 調査結果の見える化について学びます	レポート提出
第12週：調査報告書のまとめ方 社会調査を実施後に作成する調査報告書について、ポイントを学びます。	レポート提出
第13週：統計解析(1) 統計解析の種類について学びます。	レポート提出
第14週：統計解析(2) 回帰分析について学びます	レポート提出
第15週：まとめ これまでの講義内容を振り返ります。	レポート提出
第16週：定期試験 これまでの内容について、記述式の試験を実施します。テキスト、自筆ノート、配付資料は持ち込み可とし、試験時間は80分です。	

授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブラーニング	「アクティブラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー III：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考	講義内容については進行状況などにより変更する場合があります。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	社会調査の意義と目的を理解している
【知識・理解】	社会調査の概要、社会調査の倫理、集計、統計について理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	調査設計、実査、分析、報告書作成までの一連の作業を説明することができる。

【思考・判断・創造】	社会の課題を解決するための調査設計を企画することができる。
------------	-------------------------------

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		5点	5点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	20点	5点	5点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	20点	5点	5点	
【思考・判断・創造】 ※「考え方抜く力」を含む。	20点	5点	5点	
(「人間力」について)				
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	毎回の講義で課題が課されます。したがって、毎回出席していないと、課題も提出できませんので注意してください。 Sレベル：積極的に参加し、社会の課題を解決する策と、それを根拠づける説明がなされている。 Aレベル：課題の解決のためそれを根拠づける説明がなされている。 Bレベル：課題の解決手段はあるが、それを根拠づける説明が少ない。 Cレベル：課題解決の提案がない
発表・その他 (無形成果)	講義形式ではあるが、都度、習得に必要な質問したか、講義時間外に習得のための努力をしているなど20点満点で評価する。